

NPO 会員へのお誘い

NPO日本治療的乗馬協会は、国内外の治療的乗馬や障害者乗馬にかかわる人々、そして関心を持つ人々の相互交流の機会、さらに関連情報の提供などを通じ、この領域の充実と普及を行うことを目的に設立されました。毎年11月に開催している「治療的乗馬研究集会」による実践や研究成果の報告と協議、ニュースレターやホームページによる情報の提供を行っています。

本協会は、会員会費、企業等からのご寄付や協賛金によって運営されています。趣旨にご賛同の皆様には、ぜひ会員になっていただけますようお願いいたします。会員になるための手続きにつきましては、ホームページをご覧ください。



日本治療的乗馬協会

<http://jtranet.jp>

《用語説明》 社会的インクルージョン (Social inclusion)

国際連合は、国際的な人権問題の解決をその使命の一つとしていますが、1981年の国際障害者年以來、様々な人権、差別の問題をトータルに解決するためにどうしたらよいかを検討し、地域社会での生活を基盤に「あらゆる市民のニーズが計画立案と政策の基礎となる」との考えにたどり着きました。これが、1993年のウィーン人権会議、1994年の国際連合総会決議で提起された社会的インクルージョンの概念であり、「地域で生活できることは基本的な人権でありそのなかで個々に生まれるニーズを満たすような社会の形成を目指す必要がある」というのがその主旨です。同じ意味で使われることばに「万人のための社会 (Society for All)」があります。ニュースレター第7号の記事にある「ICF (国際生活機能分類)」もこの過程で開発された「障害」に関する概念です。以来、この考えを理念に、各国での取り組みが今日に至るまで続いています。国内の障害者施策、男女共同参画、高齢者施策なども、この大きな国際的な潮流のなかで具体化したものです。

さて、イギリスを中心に世界的に広まった「障害者乗馬 (Riding for the disabled)」には、障害のある人々が社会参加する機会を積極的に作っていくという考えがその基盤にあります。また、国内では(財)ハーモニセンターが「Riding for All (万人のための乗馬)」を活動のスローガンに活動しているのもこれらの考えと深く関わっています。

馬や馬のいる場所またそこで行われる様々な活動が、「社会的インクルージョン」や「万人のための社会」の実現にどのように貢献できるか、私たちは常に視野に置いていくことが必要だと思えます。(滝坂)

市販直後調査

平成22年12月～平成23年6月

新発売

ヒアルロン酸ナトリウム架橋体製剤

薬価基準収載

サイビスクディスポ[®] 関節注2mL

SYNVISC[®] 2mL ヒアルロン酸ナトリウム架橋処理ポリマー及びヒアルロン酸ナトリウム架橋処理ポリマーヒニルスルホン架橋体関節内注射剤
処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せんにより使用すること)

■ 「効能・効果」「用法・用量」「用法・用量に関連する使用上の注意」「禁忌を含む使用上の注意」については、製品添付文書をご参照ください。

販売
TEIJIN 帝人ファーマ株式会社

〒100-8585 東京都千代田区麹町3丁目2番1号
資料請求先: 帝人ファーマ (株) 学術情報部

genzyme

製造販売元
ジェンザイム・ジャパン株式会社

〒107-6337 東京都港区赤坂五丁目3番1号
<http://www.genzyme.co.jp/>

Synvisc及びサイビスクディスポはGenzyme Corporationの登録商標です。 © Genzyme Japan K.K.2010

SYV013 (LT) 1012 2010年12月作成

【編集後記】

とても暑かった夏が過ぎようとしています。今号からドイツ在住の佐久川さんによる「ドイツ乗馬(施設)レポート」の連載が始まります。深谷はばたき特別支援学校の小松さんの連載とあわせ、どうぞお楽しみに。さて、11月の研究集会に一人でも多くの皆様とお会いできることを楽しみにしております。是非、実践そして研究報告をお願いいたします。なお、本ニュースレターは年4回の発行を予定していますが、各地の取り組みの紹介や開催行事のお知らせをホームページと併せて行っていきたくと考えております。

皆様からのご寄稿を心からお待ちいたします。(滝坂 一 / 本会理事)



日本治療的乗馬協会

2011. Aug. 25. Vol.8
<http://jtranet.jp>

JTRA Newsletter

Japan Therapeutic Riding Association

編集・発行: 特定非営利活動法人 日本治療的乗馬協会 〒161-0031 東京都新宿区西落合2-6-6 Tel.03-3565-6641

第XIV回 治療的乗馬国際会議

場所: アテネ(ギリシャ)ロイヤルオリンピックホテル
会期: 2012年4月24日～27日

国際障害者乗馬連盟が3年に1度開催する国際会議が

ギリシャ治療的乗馬協会(Therapeutic Riding Association of Greek)がホストとなり、来年4月ギリシャのアテネで開かれます。

内容は口頭、ポスター、ビデオによる研究や実践報告の他、記念講演やワークショップ等が予定されています。

研究および実践の発表申し込み期限は既に終了していますが

世界中から本領域のエキスパートが集まるこの会議に皆さんも参加してみるのはいかがでしょう。

使用言語は英語、詳細プログラムは2011年12月1日にインターネット上で公表される予定です。

* NPO法人日本治療的乗馬協会は、NPO法人RDA Japanとともに国際障害者乗馬連盟の正会員です。

《日程》

2012年4月23日(月) 受付
24日(火) 受付・プレ・セミナー・ワークショップ
25日(水) 開会式・会議第一日
26日(木) 会議第二日・FRDI理事会・歓迎夕食会
27日(金) 会議第三日・閉会式
28日(土) 散会

《会議の主なトピックス》

○ 肢体不自由 ○ 精神衛生 ○ 情緒障害 ○ 自閉症 ○ 学習障害
○ 社会的インクルージョン(*)の推進

*「社会的インクルージョン」: 本紙4ページの「用語解説」をご参照ください。

《セミナーおよびワークショップの主なトピックス》

○ 馬車の操作 ○ ギリシャポニー、スキロス ○ ヨガと治療的乗馬
○ 調教師の訓練

《参加費》

参加申し込み手続きの時期によって参加費が異なります。

申込期間/区分	全参加	学生	1日参加	ワークショップ	懇親会
2011.12.01 ~ 2011.12.15	320	100	170	100	30
2011.12.16 ~ 2012. 2.29	380	100	170	100	30
2012. 3.01 ~	450	100	170	100	30

(単位: ユーロ)

* 詳しくは、大会ホームページをご覧ください。

<http://www.frdi-athens2012.gr/>

2011年度 治療的乗馬研究集会

期 間: 2011年11月5日(土)・6日(日)

場 所: オリンピック記念青少年総合センター センター棟311号室

主 催: NPO法人 日本治療的乗馬協会

共 催: 一般社団法人 日本障害者乗馬協会

参加費: 2日間 会員 5,000円/一般 7,000円/学生 3,000円

(5・6日のどちらか) 1日間 会員 3,000円/一般 4,000円/学生 2,000円

* 会費には資料代、情報交換と懇親の会費を含みます。

* 会員は日本治療的乗馬協会、日本障害者乗馬協会の会員です。

* 参加事前登録は、10月29日が締切日となります。

* 当日参加は、参加費に1,000円が加算されます。

大会テーマ: **豊かな生活の質に寄与する馬**

— スポーツとレクリエーションに焦点をあてて —

日 程: 11月5日(土) 13:00 受付/13:30~16:30 シンポジウム

「豊かな生活の質に寄与する馬—パラリンピックにむけて—」

パネリスト: 渡辺廣人・三木則夫・浅川信正・高田華羊・鎮守美奈

司 会: 柳迫康夫(JTRA理事 東京農業大学)

17:00~ 情報交換と懇親の会(センター棟カフェ・フレンズ)

11月6日(日) 8:30 受付/9:00~16:30 実践・研究報告と協議

● 実践・研究の口頭発表を募集いたします。

● 発表エントリー締切: 9月20日 ● 発表要旨原稿締切: 10月2日

* 参加、実践・研究発表の申込み方法、両日のスケジュールについては本協会ホームページ(<http://jtranet.jp>)をご覧ください。

第57回 東京馬術大会

期 間: 2011年9月10日(土)~11日(日)

9月10日(土) 11:45~

9月11日(日) 12:15~

パラ馬術チャンピオンシップの競技が実施されます。

場 所: JRA馬事公苑(東京都世田谷区)

主 催: 東京馬術大会組織委員会

主 管: 社団法人 東京馬術倶楽部

* お問い合わせについては

(社)東京乗馬倶楽部 Tel.03-3370-0984

ポニーのいる学校 [第2回]



埼玉県立深谷はばたき特別支援学校 教諭

小松 文

ポニーのメロンと私たちが会って4ヶ月が過ぎ、世話のできる教員の数も増えました。毎日、声を掛け合って調馬索や散歩による運動と馴致を行っています。調馬索ができない体力のある体育系の教員たちは引き手を持ってメロンと一緒に走ります。

大きな円を駆歩しているときには問題ないのですが、ある程度小さな円を駆歩するように調馬索を行うとメロンは左手前ができません。これらの練習を続けつつ、カラーコーンで丸く囲った馬場の中で駆歩すること、安定した速歩や常歩の練習に力を入れようと考えています。



6月24日(金)に初めて、子どもたちとメロンの正式な交流が行われました。前日から校内で宿泊学習を行っている中学部1年生とメロンとで朝の散歩をしました。怖がって近づかない生徒もいれば近づきすぎて教員たちを冷や冷やさせる生徒もいました。生徒数20名それぞれの距離感を大事にしながメロンに触れたり眺めたりし、一緒に校庭を歩きました。



子どもたちが夏休みに入りました。早くも子どもたちの声や笑顔が懐かしくなってしまう7月29日(金)、教職員を対象に『ポニーの世話』という校内研修を実施しました。そのなかで、エサと水の準備、ボロの片づけ、裏掘り、ブラッシングを説明しながら体験してもらいました。途中で雨が降ってきてしまい、メロンを引いて歩く練習ができませんでしたが、ぜひ乗ってみたいとの声が上がりました。これから毎日世話の手伝いに行ってもいいですか』と言ってくれた教員もいました。また素敵な仲間が増えました。



楽しいことばかり書きましたが、実は課題もたくさんあります。今年の夏季休業中のメロンの世話は、「一人ででもできる教員」を当番に配置し、ほか数名がこれに協力して行うようにしていますが、土日やお盆の時期は厳しいものでした。今後はできるだけ多くの教員で当番を回し一部の教員の負担にならないようにしたいと考えています。

6月4日(月)、滝坂先生が群馬への出張の途中、本校に立ち寄ってくださいました。飼料のこと、飼育環境のこと、扱い上の留意点など、そのときにいただいたアドバイスも、皆で共有し活かしていきたいです。

なお、前回のニュースレターでお知らせした145cmの身長は耳までの高さで、体高は約125cmです。はらはらすることばかりの私たちの飼育ですが、はばたき特別支援学校にぜひお立ち寄り下さい。

ドイツ乗馬(施設)レポート [第1回]

在・ドイツ NRW 州ケンペン

佐久川 未来

<経歴> 東京都立川市生まれ
日本獣医畜産大学 畜産学科(現・日本獣医生命科学大学)/ヤマハつま恋乗馬クラブ勤務
ドイツ国際平和村にて1年間の研修 / LVR Fachschule des Sozialwesens 卒
Heilerziehungspflegerin (障害児者教育・介護士)の資格取得
デュッセルドルフの特別支援学校にて、インテグレーションヘルパーとして勤務
乗馬トレーナー(アマチュア)資格取得を目指し、Stall Rögelsにて研修中

ドイツ乗馬(施設)レポート第1回目は、私が現在研修を行っているドイツの乗馬施設、「Stall Rögels」をご紹介します。 <http://michelshof.net/index.html> 厩舎は、ノルドラインヴェストファーレン州西部にあるケンペンという小さな田舎町に位置します。17世紀に建てられた伝統的なレンガづくりの建物や門構えが特徴的で、ここでは代々、養豚や酪農が行われてきました。1993年に乗馬施設としてリニューアルし、現在はマイスター資格を持つ女性オーナーの経営のもと、練習馬・預託馬・競技馬・種牡馬・若馬など約70頭ほどの馬やポニーが繋養されています。通常の乗馬レッスンだけでなく、馬車、軽乗、外乗など、幅広く馬と関わることができるとあって、厩舎は4歳から65歳までの地元の馬好きたちで毎日賑わっています。



17世紀に建てられた厩舎一部と門

ところで、ドイツのあちこちで目にするのが乗馬施設ですが、どれも同じように見えても実は「Reitschule(乗馬学校)」と「Privatstall(預託馬・競技馬限定の厩舎)」の2種類のタイプに大きく分けることができます。この「Reitschule」とは、私の研修している厩舎のように、たいていの場合、預託馬と練習馬を飼育しており、その指導者のもと一から乗馬を習うことができる乗馬学校のことです。「Privatstall」の場合は、練習馬はおらず預託馬や競技馬のみで、自馬でレッスンを受けます。また、自分の馬を馬運車に積んで指導者のもとへ出向くケースや指導者が出張レッスンに来ることもよくあります。



繁殖牝馬FerryとAronの仔馬(仔馬品評会銀賞受賞) 2011年5月生まれ

乗馬・軽乗レッスン

ドイツで女の子の習い事No.1にあげられるのは決まって「乗馬」というだけあって、興味深いことに、この厩舎に乗りに来る生徒(週80人ほど)の95%が女の子(女性)、さらにその半数以上が4歳から15歳の少女なのです。また、子どもの付き添いで来て馬装を手伝う母親達の大半が乗馬経験者というのにも驚きです。

ここにドイツの乗馬社会の底辺の広さを感じさせられます。軽乗5ユーロ(1ユーロ=116円)、子供の部レッスン12ユーロ、中級者向けレッスンで15ユーロとわりと手ごろな金額で乗馬を楽しめるのも人気の秘密かもしれません。ちなみに、男の子の習い事No.1は、もちろん「サッカー」です!

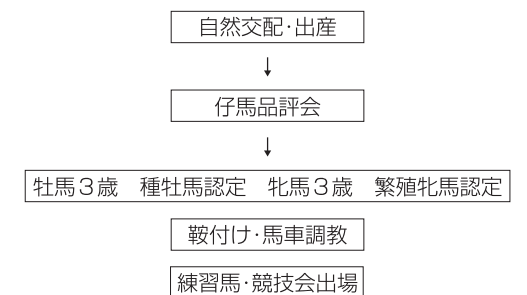


8頭のカドリール・キュア Neussでの競技会の様子 (左から交互にドイツポニーとダートムーアポニー)

繁殖・育成

この乗馬施設で特に力を入れているのは、ダートムーアポニー、ドイツポニー、ラインランド種の繁殖・育成です。ドイツでも珍しいダートムーアポニーは、もともとイギリス南西部の湿地・原野地帯が原産。体高は127cmまでと小柄ながらダイナミックな動きが特徴で、イギリス王室でも愛されているほどです。Stall Rögelsでは、子供の部レッスンから障害トレーニング、馬車、カドリール競技会・種牡馬の供覧にいたるまで、このダートムーアポニーが大活躍しています。アーヘン世界大会でも数回カドリール供覧と馬車を披露しました。

繁殖・育成・調教の流れ



Acribiaとその仔馬(ラインランド種) 2011年4月生まれ